国労盛岡

発行所　国鉄労働組合 盛岡地方本部
発行者　佐々木　政志
編集者　及川　孝
TEL 019-622-5021
メールアドレス
nrumori@poem.ocn.jp

2022.11.30
第1548号

大会特集号

組織拡大・労働条件の改善に取り組む

＝平和と民主主義を守り、政治課題の解決も強化＝

地方本部は10月8日、第78回定期地方大会を盛岡市のコミュニケーションギャラリー・リリオで関係者約40人の参加で開催した。今大会は、新型コロナウイルス感染対策をとりながら3年振りに来賓や国労議員団を招き連帯の挨拶を戴いた。大会では、矢継ぎ早な施策と労働条件改善、組織強化・拡大の取り組み、職能別協議会の在り方や地域分会活動の活性化など5人の代議員（特別代議員含む）が発言した。そして向かう1年間は、労組未加入者の組織化をはじめとした組織の強化・拡大はもとより、正常かつ健全な労使関係の確立、労働条件改善と安全・安定輸送の確立、平和と民主主義・国民生活を守る立場からさまざまな政治課題についての取り組みなどを確認した。今大会での沢田光広執行委員長の辞任を受け役員改選が行われ、佐々木政志執行委員長、及川孝執行副委員長を選出した。

第78回定期地方大会／盛岡市・リリオ

大会は川田議長（青森地域分会）を選出し進められた

川田議長（青森地域分会）で進行

大会は10時30分から佐々木政志副委員長の開会挨拶で始まり、代議員17人中16人と地方本部役員の出席を確認し大会が成立していることを宣言。大会議長に川田琢治代議員（青森地域分会）を選出し議長就任の挨拶を受け進められた。

最初に沢田光広執行委員長が地方執行委員会を代表し挨拶（別掲）。続いて山岸伸行岩手県交運労協議長をはじめ多くの来賓から連帯と激励の挨拶を戴いた。その後、及川孝執行委員が大会日程説明、小笠原勝豊執行委員が大会期日延期承認を提案・承認され、佐々木執行副委員長が組織検討委員会答申を提案し承認された。引き続き、菊池要悦書記長が規約改正を提案、承認を受け、小笠原執行委員が選挙管理委員会の設置を提案。

菊池書記長が協約・協定の締結を提案・承認され、沢田委員長辞任に伴う地方本部役員と地方委員の選挙告示を千葉明告選挙管理委員長（一関地域分会）が行い、菊池書記長が2021年の経過報告と2022年度の運動方針案を提案。修正動議の扱いを及川執行委員が説明し昼食休憩に入った。

昼食後、来賓の及川隆浩平和環境岩手県センター事務局長より連帯の挨拶を受け、千葉選挙管理委員長が佐々木執行副委員長、及川執行委員の辞任に伴う選挙再告示を行った。続いて、小笠原執行委員から2021年度決算報告が提案・承認され佐々木力特別執行委員が盛岡国労会館の事業報告し運動方針の討論へと進んだ。方針では5人が発言（別掲）、執行部答弁・書記長集約（裏面）を受け、拍手で原案通り採択し方針が確立された。次に小笠原執行委員からの2022年度予算案提案・承認され組織検討委員会の設置も確認、ストライキ権確立一票投票が行われ、出席代議員17人全員の賛成で確立。その後、千葉選挙管理委員長より執行委員長、執行副委員長、地方委員が定数通りの立候補で無投票の選出が報告された。退任の沢田委員長が挨拶、新役員（別掲）の佐々木執行委員長、及川執行副委員長が挨拶。大会宣言を小笠原執行委員が読み上げて提案・採択。川田議長の退任挨拶後、及川執行副委員長が議長の労をねぎらい閉会の挨拶。

最後に佐々木新執行委員長の音頭で団結ガンバロウを三唱し閉会した。

◇方針討論◇

組織の再編、安全問題に警鐘
エルダー、職場実態など議論
＝代議員・特別代議員5人が発言＝

方針討論では5人の代議員・特別代議員が発言した。要旨は次のとおり。

◇

◎小原典昭代議員（青森地域分会）

▽3月に営業統括センターへ。入換ダイヤが前日に決定するなど業務の戸惑いも多い。

▽青森運輸区廃止に伴い異動した組合員のエルダー提示先が弘前方面。青森運輸区廃止時の交渉経緯を尊重させるべき。

◎菅原高明特別代議員（盛岡支部）

▽盛岡支部休止に向け議論をしてきた。支部休止以降、三地域分会の活動の活性化が重要になる。

▽組織の再編が進められ仕事のやり方も大きく変わってくる。若手社員の退職もあるが不満・不安の声を聞き組織拡大のきっかけづくりとしたい。

◎大西信行代議員（盛岡地域分会）

▽組織再編に伴い盛岡ターミナルビルに出向になった。いきなりの発令のため十分な引継ぎも出来なかった。盛岡駅改修工事があるので次世代社員との関係を切らさず交流していく。

▽線閉責任者等の資格を持った人が少なく、少ない経験で即見極めとなる状況。技術継承は上手くいかない。

◎小野寺俊彦特別代議員（運輸協議会）

▽運輸協・運転協の統合について役員会で今後について検討していく。運輸協として三分科の見直しを図っていきたい。

▽旅客サービスの低下が著しい。体の不自由な方のケアも重要。TID画面で出発信号機の現示がされず、列車の動きがつかみづらくなっている。

◎浮中明代議員（盛岡地域分会）

▽組織再編に伴いテムズ盛岡SCに出向になった。信通課・技セが一体となり仕事のやり方も変わっていくが誰に業務の引継ぎをすれば良いのか分からないまま出向した。

▽設備技セもメセも私服で業務するという説明があったが更衣時間の扱いについての回答がされなかった。

▽新体制に伴い過半数代表者選挙が取り組まれる。電気班で役員会を開催し、電力設備技セでは国労から立候補して取り組むこととした。P社からも若手社員との関わりを続け組織拡大に結びつけたい。

菅原高明特別代議員（盛岡支部）

大西信行代議員（盛岡地域分会）

小原典昭代議員（青森地域分会）

小野寺俊彦特別代議員（運輸協議会）

浮中明代議員（盛岡地域分会）

沢田執行委員長あいさつ（要旨）

JR東日本では、「融合と連携」「柔軟な働き方」と称して、駅と乗務員区を一つの職場とした再編を行い、本社・支社・現業機関で業務の集約・効率化が実施され、会社発足以来最大の再編が進められている。一方で、矢継ぎ早に展開される施策の中で管理者さえも混乱し、社員に説明ができない職場状況が聞こえいる。このような実態は、労働者に多くの不安や不満を抱かせている。組合に加入していない社員が8割を占めるという状況で、不安や不満を声にする術がなく会社施策に疑問を持たないのではないか。「少しでも働きやすい、働き続けられる職場環境づくり」が労働組合の任務である。安全で安定した輸送とサービスの確保のためには、働く者が安心して働き続けられる労働条件を整えていくことが重要であり、不安や不満にも寄り、一緒に悩み、考えることを労働組合の任務とする中で、組織拡大への大きな足掛かりとしたい。第16回組織強化拡大対策会議では、取り組みが大きく制限されている情勢下で、できることを見つけ、交流を続けていることが報告された。私たち一人ひとりの思い＝「国労で一緒にがんばろう」という強いメッセージを発信し続けていくこととする。

地方ローカル線の在り方を議論してきた国土交通省の有識者検討会が、輸送密度1000人未満の線区については存続を含めて議論し、国が鉄道事業者や地元自治体を含めた協議会を設けることを提言した。国労は基本的に「鉄路を維持しながらあくまで地元住民や自治体の意思を尊重した、バスなどの公共交通との組み合わせによる地域公共交通を目指す」という態度で臨んでいる。盛岡地本は当該線区を多く抱える地域でもあり、行政や制度に関する課題になど、本部・東日本本部・共闘の仲間との連携を強化しながら対応していく。

ロシアがウクライナに軍事侵攻して始まった戦争が長期化している。戦争で一番の犠牲になるのは普通に暮らしている人々であり、国労は結成以来一貫して戦争に反対し、世界の平和を求め運動を繋いできた。

集団的自衛権の行使、安倍元首相の国葬問題、旧統一教会と自民党との関係など憲法改「悪」の疑念が持たれている。岸田首相は、事態の収拾に向けて何一つ手を打たずこの間の値上げ、物価高により格差と貧困はますます拡大している。来年の統一地方選挙では、地方から政治を変え、自公政権を追い込むために、各種選挙勝利向けて奮闘しよう。

「2022年度運動方針」の確立と、国労盛岡地方本部に結集する組合員・家族が一丸となって組織拡大をはじめとする闘いに全力をあげて闘おう。

ていこう

11月のはじめ勤務終了後、久しぶりにエルダー出向組合員を交えての飲食を共にした。コロナ禍前はこの時期に「OB交流会」を開催し、少し早い忘年会を兼ねて交流の場をつくっていた。「OB交流会」開催有無を検討していたころは、ちょうどコロナ第7波が猛威を振るっていたころ。OBの体調管理も含めて泣く泣く中止とした▼現在、行動制限なし！全国旅行支援も始まり「3年ぶり」という開催文句がさまざまな行事・イベントで使われている。先日、駅に隣接するホテルでの「宴会」の相談を受けた。調べたとこと、12月の土・日は忘年会を含め「3年ぶりの開催イベント」に予約が埋まっている。何とか最後の一部屋を抑えることができほっと胸をなでおろした▼その一方で、新聞報道のアンケート調査によれば、忘年会を〝開催しない〟と答えた企業が6割を超えたらしい。デルタ株が猛威を振るった初期のころはコロナに感染しないことばかり考え、運動もレクリエーションも飲み会も制限した。これからはこの3年余りで学んだことを生かし、的確に判断して行動していかなければならない▼ウィズコロナ時代の新たなライフスタイルを意識しつつ3密回避やこまめな手指消毒は当然のこと、マスク会食などの十分な対策をしながら「どうすれば出来るのか」を考えていこう▼今回、久しぶりにエルダー出向組合員と語り合い近況を報告する中でやはり「リアルは良い」と痛感した。これから忘年会シーズンが本格化してくるが、次世代につながる若い人たちを誘って交流する場をつくってみるのも良いのでは（孝）

書記長集約（要旨）

業務の融合化に伴い会社施策の検証を強めていく

地方で1名の拡大に向け全力を

【労働条件改善・権利確立、「安全・安定」輸送確立の闘い】

ＪＲ東日本は２年連続で「赤字決算」となったことを受け、営業統括センター・統括センターや設備技術センターなど、業務の融合化を推し進めている。ＪＲ貨物においても、「鉄道輸送を基軸とした総合物流企業グループ」を目指すとして、全系統にわたる合理化・効率化施策が進められる中、会社の将来展望に失望し、若年退職を選ぶ社員も少なくない。ＪＲを次代につなぐことが必要であり、引き続き「仕事総点検運動」「安全総点検運動」を取り組み、会社施策を検証する中から、課題解決に向け職協・地域分会との連携を強めて行く。

【２０２３春闘の前進をめざす闘い】

ＪＲ東日本においては、新型コロナウイルス感染症拡大による経営状況の悪化で、２０２１年度の期末手当合計月数は４．０ヶ月となり、この２年間で２．０ヶ月分（60万円以上）の減収となった。また、２０２１春闘では昇給係数が半減し、いまだその回復が図られず、ＪＲ採用社員にとっては生涯賃金で１００万円超の減額となっている。一方、ＪＲ貨物においても、鉄道事業部門の黒字化達成でも社員への十分な還元が行われず、社員・家族に犠牲を強いる経営施策が続けられている。２０２３春闘は、職場から労働組合の「顔」の見える取り組みを強化する中から組織拡大につなげていかなければならない。

【組織強化・拡大の闘い】

８割がグループ会社・パートナー会社へ出向している中で、私たちがいまできることは、社員の声を掴み、それを職場改善に結びつけるべく努力をすることであり、そのことを労組未加入者に見てもらうことだと考える。本部方針で掲げたエリア・地方各１名、全国で５０名の拡大に向け地方で取り組みを強めていく。全組合員が「当事者意識」を持つ中で、「もう一人の青年、もう一人の女性」の拡大に全力を挙げよう。

【地方交通線の維持・存続、公共交通確立の闘い】

東北地方は２０４０年までに３割程度の人口減少が見込まれている。少子高齢化が進行する中で地方における輸送モードをどうしていくのかは、地域住民の足を守るという視点から重要な問題である。盛岡地本管内すべてのローカル線が対象線区であり、持続可能な公共共通の確保に向けた取り組みが急務となっている。地方本部は、「総合交通政策」実現に向け、各県交運労協の場を通じ、取り組みを強めて行く。

【平和と民主主義を守る闘い】

岸田政権誕生から一年を迎えた。安倍元総理の「国葬」と、自民党と旧統一教会とのつながりで、支持率は大きく低下している。昨年施行された一関市議選では千葉信吉市議の再選を、今年施行された花巻市議選は阿部一男市議の再選をそれぞれ勝ち取ることができた。来年は４年に一度の統一地方選挙の年である。国政における護憲勢力を拡大し、民主主義、立憲主義に立った「いのちと暮らしを守る」政治を取り戻すためにも「足元」の取り組みは重要である。地方本部は、平和環境岩手県センター及び青森県平和労組会議で確認された方針の下、全力で取り組むこととする。

選挙への謝辞と協力要請

＝議員団４人が参加＝

地方議員団の写真左から千葉信吉一関市議会議員、山﨑道夫矢巾町議会議員、阿部一男花巻市議会議員、木村幸弘岩手県議会議員が大会に参加した。

（髙橋伸二平泉町議会議員、星あつ子北上市議会議員、斎藤憲雄前青森市議会議員は所用により欠席）

各議員は、自治体・議会での取り組みや選挙への謝辞と協力要請等を述べた。なお、議員団総会も開催された。

来賓・メッセージ

【来賓】（挨拶・紹介順）

山岸伸行岩手県交運労協議長、吉田和弘交運共済盛岡統括事業部事業推進部長、武田幸喜東日本本部書記長、国労議員団（木村幸弘岩手県議会議員、千葉信吉一関市議会議員、阿部一男花巻市議会議員、山﨑道夫矢巾町議会議員）松山剣司鉄道退職者の会盛岡地方連合会会長、北上洋子地方本部家族会会長

◇

【祝電・メッセージ】（順不動）

自治労岩手県本部、岩手県教職員組合、岩手県高等学校教職員組合、岩手県交通労働組合、全自交岩手地方本部、全農林労働組合岩手県協議会、全水道盛岡水道労働組合、全国林野関連労働組合東北地方本部岩手県協議会、東北労働金庫労働組合岩手県支部、全労済労働組合北海道・東北支部岩手分会、岩手県教育委員会事務局職員組合、全日本運輸産業労働組合岩手県連合会、立憲民主党岩手県総支部連合会、社民党岩手県連合、日本共産党岩手県委員会、東北労働金庫岩手県本部、こくみん共済ＣＯＯＰ岩手推進本部、一般社団法人ハピネス共済会、国労議員団（星あつ子北上市議会議員、髙橋伸二平泉町議会議員）国労関係（東北協議会、仙台、秋田、東京、水戸、長野、千葉、高崎、新潟）

執行部の答弁

▽青森運輸区廃止時の交渉経緯尊重をとの意見については真摯に受け止めたい。さまざまな機会を通じ会社側へ投げ掛けていきたい。

▽津軽線・蟹田～三厩間の問題について、まずは地域住民の声、自治体の思いがどうなのかが重要と考える。地域住民の声に沿う取り組みが求められている。

▽分会活動の活性化はこれまでも提起してきた。盛岡支部休止以降、地域分会の運動が重要になってくる。組織強化の面からもこれまで以上の取り組みをお願いする。

▽組織再編から出向職場へ異動した発言もあった。ぜひ出向先とＪＲ職場との関係がある職場なので、若手社員との関係を切らさず継続して交流してほしい。

▽過半数代表者選挙の取り組みは、代表者になることが最終目的ではなく労基法や労安法に関心を持ってもらい労働組合を意識し、その先の国労加入につなげることである。積極的な取り組みをお願いする。

花巻市議会議員選挙 7月24日投開票

阿部 一男 氏（社会民主党）

2021票獲得し4位当選

7月24日（日）投開票の花巻市議会議員選挙（定数26）で組織内候補として立候補した阿部一男氏（75歳）社会民主党公認が２０２１票を獲得し12期連続の当選を勝ち取った。北上地域分会の組合員を中心とする取り組みにより4位で議席を確保した。

阿部氏は、今後は選挙戦で公約に掲げた政策の実現に向け、国労盛岡地方本部議員団の一員として活動していくこととしている。

役員改選

新執行委員長に佐々木政志氏を選出

＝沢田執行委員長が辞任＝

今大会は地方本部役員改正期ではないが、沢田光広執行委員長の辞任を受け役員改選の選挙が行われ、新役員に佐々木政志執行委員長、及川孝執行副委員長を選出した。任務等については国労盛岡速報版10月31日付けを参照。

新役員を代表して、佐々木政志執行委員長より挨拶

◇

【新執行体制】

▽執行委員長　佐々木政志（ＭＲＳ盛岡運転営業所）

▽執行副委員長　及川　孝（盛岡ターミナルビル）

▽書記長　菊池　要悦（盛岡営業統括センター）

▽執行委員　小笠原勝豊（盛岡営業統括センター）

▽会計監査　淡路　明則（盛岡土木設備技術センター）

▽会計監査　沖田　司男（八戸新幹線保線技術センター）

機関紙

「あおもり地域分会」優秀賞

2021機関紙コンクール

大会では、２０２１年度地方本部機関紙コンクールの表彰も行われ、青森地域分会の機関紙「あおもり地域分会」が優秀賞となった。青森地域分会は、最新情勢を踏まえながら月１回の発行を目指している。

交運共済から〝こくみん共済COOP〟へ

2023年7月契約移転

交運共済は２０２３年７月、任意共済について〝こくみん共済ＣＯＯＰ〟へ契約移転となる。１月に送付予定の契約移転関係書類を必ず開封の上、「移転申込書兼解約届」を確実に提出すること。団体会員でなければ団体割引適用にならないため「鉄道退職者の会」への加入手続きを確実に行うこと。